

# 音楽科 学習指導案

日 時 平成16年10月 6日(水) 5校時

学 級 3年A組(男子18名 女子16名 計34名)

指導者 佐々木節子

1 題材 日本の伝統芸能 (書籍 2・3下(3)年 (能「海士 玉ノ段」から))

## 2 題材について

### (1) 教材観

この題材のねらいは、学習指導要領の「B 鑑賞 Ⅱ 音楽をその背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどから、総合的に理解して聴くこと。」に関わるものである。

「能」は、室町時代に観阿弥・世阿弥によって大成され、江戸時代までには現在の様式が確立された。さまざまな伝統音楽に大きな影響を与えてきた「能」の鑑賞を通して、伝統芸能の魅力を感じ取らせ、理解を深めさせたい。

本曲は、内容的には、母性愛に焦点を当てている。わが子を出世させるため、命をすてて海に飛びいる雄雄しい「母親」、また、この母の子である大臣も高貴な身分でありながら、四国の漁村に追善の旅にでる孝養の念の深い人物として描かれており、話の展開が理解しやすい。大臣一行の登場から、シテ(海女)の登場、昔語り、珠の引き上げの再現(玉の段)、シテの消失、法要、後シテ(龍女)の登場まで、整合性のとれた内容になっている。

玉ノ段は、謡の文句も全体的によく整っていて、海底竜宮の様子やそこに忍び入る海女の姿などが再現されている。また、登場人物の型の動きにも変化のある場面である。謡と型から登場人物の心情や情景を想像させるのに適していると考え設定した。

### (2) 生徒観

これまで、箏曲「さくらさくら」「六段の調べ」の鑑賞を通して、伝統音楽に親しんできている。その中で、音色を意識して聴いたり、曲想から音楽の特徴をとらえる活動をしている。生徒達は、日本の伝統音楽固有の美しさを感じ取っていた。本題では、伝統芸能である「能」に着目し、謡の型の表現に関心を持たせ、謡の独特な表現技法による効果や型との関係を理解させたい。

### (3) 指導観

指導にあたっては、外部講師を招き、実際の型に着目し、その独特な表現の特徴(構造的側面)をとらえさせながら、それによってつくられる場面の情感や雰囲気(感性的側面)を感じ取らせる。また、型と伴わせて演じられたときの表現効果について実演を通して感じ取らせ、「能」の持つ独特の世界に気付けるとともに、多様な伝統芸能にも幅広く興味を持つようにさせたい。

### (4) 教科における最終的な願い(生き方)に対する指導観

伝統芸能の鑑賞をし、音楽の多様性、社会や文化・歴史とのかかわり、音楽と他の分野との結びつきを感じたり、理解することが、我が国の伝統文化に対して幅広い興味関心と誇りをもつことにつながる。他の芸術と音楽の密接な関わりとその魅力を理解し、すすんで音楽に関わったり、生活に取り入れたり

しながら，豊かな情操をもって生きていくことにつなげていきたい。

### 3 題材の目標

#### 【音楽への関心・意欲・態度】

伝統芸能である能とその背景となる歴史・文化との関係に関心を持つ

#### 【音楽的感受や表現の工夫】

謡と型から登場人物の心情や情景を感じとる

#### 【鑑賞の能力】

謡と型の表現のよさを理解して，能の魅力に気づく

### 4 題材の指導計画と評価規準

時	指導目標	関心・意欲・態度	音楽的感受や表現の工夫	鑑賞の能力
1	伝統芸能である能とその背景となる歴史・文化との関係に関心を持っている	伝統芸能である能やその背景となる歴史・文化に関心を持つ		背景となる歴史・文化と関連づけて，能を観る
2 (本時)	謡と型から登場人物の心情や情景を想像して，能の魅力に気づく		謡と型から登場人物の心情や情景を想像している	謡と型の表現のよさを理解して能の魅力に気づく

### 5 本時の指導

#### (1) 目標

謡と型から登場人物の心情や情景を想像する

#### (2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

観 点	評価規準	具体的評価規準		
		A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	Cと判断される生徒への支援
音楽的感受や表現の工夫	謡と型から登場人物の心情や情景を想像する	登場人物の心情や情景を想像する	謡と型から，情景を想像する	謡の言葉と型を結びつけることにより，情景を想像する
鑑賞の能力	謡と型を理解して能の魅力に気づく	謡と型の相乗効果に気づき，能のよさに気づく	謡と型を理解し，能の良さに気づく	謡と型を理解して，能を観る

(3) 指導の構想

「海士」玉の段である「かくて龍宮～飛び入れば」の部分を朗読のみで登場人物の心情や情景を想像させる。次に謡と型だけを観て、わからなかった登場人物の心情や情景に気付かせたい。朗読のみを聴いた場合と謡と型を観た場合の違いを考えさせることで、謡と型の表現の魅力に気づかせたい。「海士」玉の段の部分を外部講師である能楽師観世流シテ方中所宣夫氏による謡と型によって、登場人物の心情や情景を想像させ、能の魅力を味わわせたい。

評価は、プリントの内容や観察、自己評価でおこなう。

(3) 展 開

過程	学習の流れと主要発問	生徒の学習活動	教師の支援( )評価( )留意点(・) (T・Tの動き)			
想起 課題把握 10分	1 外部講師の紹介  2 謡と型による「海士」玉の段	・ あいさつをする  ・ 謡と型による「海士」玉の段を観る	・ 外部講師 能楽師観世流シテ方 中所宣夫  ・ 外部講師による謡と型 ・ 印象に残ったところをプリントに記入させる			
	謡と型による能のよさを味わおう					
課題追 求	3 「海士」玉の段 「かくて龍宮～飛び入れば」の想像	・ 朗読を聴いて登場人物の心情や情景を想像する  ・ 想像したことを発表する  ・ 謡と型を観て、登場人物の心情や情景を想像する	・ 「かくて龍宮～飛び入れば」の部分を取り上げる ・ Tによる朗読 ・ プリント記入  ・ 謡の言葉に気をつけて聴かせる ・ 外部講師による謡と型 ・ 気付いたことをプリントに追記入			
課題 解	4 謡と型の関係	・ 謡と型の関係について、グループで話し合い、発表する	・ プリントに追記入されていて、話し合いで自分の考えを発表しようとしているか ・ 謡と型のよさに気づくことができたか			
		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">【A】 登場人物の心情や情景を想像する</td> <td style="width: 33%;">【B】 謡と型から情景を想像する</td> <td style="width: 33%;">【C】 謡の言葉と型を結びつけることにより、情景を想像する</td> </tr> </table>	【A】 登場人物の心情や情景を想像する	【B】 謡と型から情景を想像する	【C】 謡の言葉と型を結びつけることにより、情景を想像する	
【A】 登場人物の心情や情景を想像する	【B】 謡と型から情景を想像する	【C】 謡の言葉と型を結びつけることにより、情景を想像する				

決 35 分	5 謡と型による「海士」玉の段	・ 謡と型による「海士」玉の段を観る	・ 外部講師による謡と型
		<div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>【A】 謡と型の相乗効果に気づき、能のよさに気づく</p> <p>【B】 謡と型の関係を理解し、能のよさに気づく</p> <p>【C】 謡と型の関係を理解して、能を観る</p> </div>	
		・ 感想を記入し、発表する	謡と型の関係を理解して能の魅力に気づいているか
ま と め 5 分	6 まとめ	・ ふりかえりカードに記入する	自己評価